

# 術前 FDG-PET で腋窩リンパ節転移 偽陽性を示した乳癌の 1 例

## — 半導体 PET/CT の初期使用経験 —

くろ だ ひろ ゆき やま もと のぶ こ よし ざこ たけし  
黒 田 弘 之<sup>1)</sup> 山 本 伸 子<sup>1)</sup> 吉 廻 毅<sup>1)</sup>  
きた がき はじめ かみ むら とも み いた くら まさ ゆき  
北 垣 一<sup>1)</sup> 上 村 朋 未<sup>2)</sup> 板 倉 正 幸<sup>3)</sup>

キーワード：半導体 PET/CT, 乳癌, リンパ節転移

### 要 旨

症例は40歳代女性。左 CD 領域に21 mm の乳癌あり。術前 FDG-PET/CT 施行。使用機種は Philips 社製半導体 PET/CT Vereos。早期像で全身撮影後、呼吸性体動抑制のため補助具（同社製 Breast Support）を用い腹臥位で胸部後期像を撮影。読影は放射線科専門医 2 名（内 1 名は乳腺専門医）が行った。原発巣に集積（SUVmax 早期5.2, 後期5.7）あり。左腋窩リンパ節レベル I に片側性の集積（同 早期2.2, 後期2.1）を認め視覚的に転移陽性と判定したがセンチネルリンパ節生検の結果は0/3。半導体検出器は空間分解能が高く従来機とは視覚的評価基準を変える必要があると思われた。

### はじめに

当院では2020年9月に半導体 PET/CT を導入した。半導体 PET/CT で使用される半導体検出器は従来型の光電子増倍管検出器に比べ空間分解能が高く、乳癌術前診断におけるリンパ節転移の検出感度向上が期待されている。しかし腋窩リン

パ節は非特異的集積が比較的多く、これを過剰に拾い上げたため偽陽性となった1例を経験したので報告する。

### 症 例

症例：40歳代，女性。  
主訴：左乳房のしこり。  
現病歴：2年前，左乳房 D 領域にしこりを自覚したため近医受診。同部に 5 mm の低エコー域を認め，当院乳腺外科紹介。穿刺吸引細胞診が施行されたが悪性所見を認めず。2年後，経過観察のために行われた乳腺超音波検査にて同部に長径

Hiroyuki KURODA et al.

1) 島根大学医学部放射線科

2) 島根県立中央病院放射線科

3) 島根大学医学部乳腺外科

連絡先：〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

島根大学医学部放射線科